童

2023 年 7 月 3 日.

梅雨真っ只中。降る時は、恐ろしい勢いで降る！！　ここ数年のゲリラ豪雨の特徴です。特に、夜中に降り続けている時は、とても不安な気持ちになりますね。特に、川縁や傾斜地や山に住んでいる人達にとっては。自然の変化が大きい幅になっているのが特徴です。自然に関しては、ほどほどにと言うのが願いです。

夕涼み会の影絵のように、日照り続きで、物も人も動物も倒れてしまうのも問題ですが、日本の温暖湿気が程よい状況であるからこそ、作物が豊かに豊富に実るのですから、程よい穏やかな気候が続いてもらいたいものです。

さて　留守の間に、浦島太郎のように、別世界になっているのに驚きました。特に　田んぼです。出かけるときは、田植えをしたばかりの小さな赤ちゃんが、戻って見ると、しゃきっとしていて田んぼにしっかりと根を張って立っているではありませんか。まさに、ここ一ヶ月が、子どもたちの幼児期から児童期にかけての成長のように思えました。

同じように、三週間会わなかった子どもたちも、稲と同じように大きくなったことを実感します。青ちゃん姉ちゃんも、先日来てくれましたが、同じように　子どもたちの成長を楽しそうに話してくれました。

梅雨の時期は、草木や雑草も一番成長を遂げる時期ですね。農業や園芸をしていれば特に実感できますが、雑草が伸びるのが一番早い時期が、今です。雨が少なくても伸びます。栄養も無くてもドンドン上に伸びていきます。

人間も、同じ生き物ですね。ある程度　放っておいても自然に上に伸びていくものです。促成栽培や温室栽培や遺伝子操作栽培などでは、本当のおいしさを味わえる果実や野菜が少ない事は、誰もが実感できると思います。

本当に美味しい作物は、やはり自然栽培。大きく包み込んで、見守りながら、必要な時期に、最低限必要な事をして、自分自身で自分を守る強い身体ができるようにお手伝いしてあげる、草マルチのように、自然なもので、包み込んでいってあげることが、植物から学ぶ育児のような気がします。

【スマホ】

三週間の欧州周遊旅行、お陰様で無事に戻って参りました。40 年前同様、日の出から日没（午後 10 時位）まで貪欲に歩いてきました。大地での日常と何の変わりもないほど、欲深で毎日足がパンパンになるほど好奇の眼をあちこち向けてきました。バス　電車　路面電車　地下鉄などを地元民のように使いこなしながら暮らす毎日。ただ、一点違うのは、スマホの代わりにガイドブックを持っている事です。いやあ、今の時代、ガイドブックを持って観光している人は、誰一人いませんでした。地図を見ながら、道を尋ねる人もいなく、こちらが尋ねたら、逆に、スマホで調べて示してくれます。

と言うのは、初日にしてあれほど準備していった海外用のスマホのシムが使えなかった事です。頼るのは、ガイドブックと無料 WIFI の使える場所だけ。もちろん、☎も使えません。やはり、40 年前同様、自分の足と口で切り開いて行くしかないと言うこと。それが、やはり結果的には、素晴らしい旅になった事は言うまでもありません。おまけに、三脚対応のデジカメも壊れてしまい、こちらも人にお願いするしかありません；

ホテルや目的地にたどり着くには、スマホのマップを使えば簡単に正確に短い距離でたどり着く事ができますが、尋ねると、人によっては全く違う答えが返ってきて行ったり来たり、歩く距離はとんでもない事になることがありますが、たどり着いたときの喜びは大きいものです。そして、聞いた後は、ほとんどに人が　「良い旅を！！」と声をかけてくれます。中には、わざわざ、電車を降りて案内してくれたり、行き先まで連れて行ってくれたり。嬉しい出会いがたくさんあります。

中世の名残のある都市は、ほとんど　碁盤の目のようになっており、それぞれに必ず　○○ street などと、通りの名前が書いてあります。この看板を見つけながら辿っていくことは、かくれんぼか鬼ごっこをしているようで、面白い、ものです。その地域、街に親しんでいるように思えます。（背中の荷物さえなかったら・・・・）

その街の雰囲気を知るのは、朝早く起きて歩いてみるのがいい　と聞いたことがあります。中世ヨーロッパの観光地も、日本と同じように、たくさんの観光客が訪れています。名所は、人でごった返しています。戸隠奥社などのパワースポットも、誰もいない早朝などは、やはり違いますね。同じように、私たちも、すてきな場所は、人の少ない早朝又は夜（こちらは、10 時まで明るいので難しい！！）を狙います。美術館や博物館も、開場一番を狙います。ただ、困るのは、早朝に道に迷ったとき、聞く人が誰もいないことですが、これまた、面白い事ですが。そして、朝早いパン屋さんを見つけて、パンを買い、珈琲を道ばたのテーブルで飲むなんて、素晴らしい事でした。誰もいない静まりかえった広場　数時間後に訪れると人の波でごった返している同じ広場、いろいろです。でも、歴史ある場所などは、やはり静けさが一番です。新聞配達の人は　同じように　朝早かったですね。皆さん　親しみがわきます。

宿は、事前に調べて予約していったのですが、中にはうまく伝わっていなかったり、アパートメントを借りたので、自動でチェックインしなければならないシステムがあり、スマホや☎が必要になったりしたのですが、もちろん　こちらは、スマホや電話は作動しません。夕暮れで人の気配が途切れている場所で。知らない家のインターホンを押して「ヘルプ　ミー」とお願いして、☎をかけてもらったり、お礼に　ツルヤのせんべいをお返しにあげたりして、どっと疲れと安心感が襲ってきましたが、これって　40 年前と変わらないよね　と笑いました。

10 枚ほど、40 年前に訪れた時の写真を持参して、同じ場所を探し、同じポーズで撮影してみようと　という場所を見つける旅もありました。ヨーロッパは、町並みを大切に維持するので必ず残っているだろうと思っていました。結果的には、全て見つかりました。大きな目印や有名な像や建物はすぐにわかりましたが、風景や町並みをバックにした写真は難しい、この場合は　やはりスマホでは無理です、地元の年配者や地元に息づいて暮らしているような人を訪ね回るしかありません、まさに　探偵か刑事のように聞き込みしながらです。こんなことをしながら、思い出の場所で感慨にふける事ができました。

あまりにも事前に知りすぎる事は、安心を得る代わりに、感動を失い、特に　旅は　確認に終わり、発見を生まないと聞いたことがあります。まさに　スマホは　その代表的なものかもしれません。今回の宿は　当たりだった。今回のレストランは外れだった。今回の訪れた場所は最高だったなどなど。美術館やコンサートなどは、事前調べは必要ですが、生活に密着する暮らしなどは、旅行の場合、あまり知らない方が面白いかもしれませんね。

今回　唯一失敗したこと。着替え衣類が多すぎた。洗濯しながら暮らせたので、下着着替え一組、既に暑いので、薄手の長袖のみ、サンダルかスニーカーだけで OK。まさに大地の日常で OK だったこと。お陰で　ザックの重さ　往路は　姪へのお土産を含めて 15 キロ　復路は、25 キロのザックを背負う羽目になりました。

まさに、本当に楽しいことは　決して　楽なことではない　を実感しました。また、出かけます。